

万博コラム vol.1 「万博ってなに？」



開幕まで残り300日を切った2025年大阪・関西万博。今月号から、2025年日本国際博覧会協会からの万博コラムを毎月掲載していきます。皆さんも、万博についてもっと詳しく知ってみませんか。

国政策推進課
(内線 514)

2025年日本国際博覧会協会の西本 敬一と申します。いよいよ来年4月に大阪・関西万博が開幕します。その魅力をより多くの方々に感じていただけるように、今月から連載を始めさせていただきます。

万博を巡っては、報道なども含めてさまざまな疑問が挙げられます。テーマパークや見本市と何が違うのか、インターネットや海外旅行の時代に必要なのかなどの疑問です。そこで第1回は、そもそも「万博とは何か？」について3点紹介します。

1 点目は「公衆の教育」です。国際博覧会条約第1条には、万博の定義として「公衆の教育を主たる目的とする催し」と書かれています。やや堅苦しい表現ですが、世界と未来を「学ぶ」人類最大のイベントと言い換えても良いでしょう。主体性や対話を重視するアクティブラーニングにも通じることから、教育関係者の皆さまにも万博を活用いただけるとありがたいところです。

2 点目は「時代を映す鏡」です。170年の歴史を誇る万博は、常にその時代時代を反映してきたイベントです。万博は未来のイベントと思われがちですが、実は「世界の今を知り、未来を考え想像する場」が万博です。SFの未来ではなく、想像可能な近未来がポイントです。大阪・関西万博には既に161の国・地域が参加を表明済みで、1970年大阪万博の2倍を超えています。これ程の規模で世界の今をリアルに知る場は、万博以外には存在しません。

3 点目は「世界の人々が一堂に会する場」です。共通のテーマの下、半年間もの長きにわたり、世界の人々が同じ場所にリアルに集う比類なきイベントです。海外各国のパビリオンのみならず、日替わりで各国のイベントや記念式典が楽しめるナショナルデーなど、世界中のあらゆる人々の息づかいをリアルに感じ、深く対話し交流できる一生に一度の機会といっても良いでしょう。2005年の愛・地球博では、多くのリピーターの方々が世界の人々とのリアルな対話と交流を楽しみました。

万博とは何か？について、公衆の教育、時代を映す鏡、世界の人々が一堂に会する場の3点を紹介しました。次回以降、このような万博が持つ魅力をお伝えすることで、多くの方々にとって、来るべき大阪・関西万博が一生に一度の機会となるようお手伝いさせていただきます。

〈西本 敬一氏 プロフィール〉

- ・2025年日本国際博覧会協会 経営企画室上席審議役
- ・日本貿易振興機構(JETRO)から出向(2022年8月～)。海外勤務経験:計12年(オーストリア、ドイツ、米国ニューヨーク・ロサンゼルス)
- ・2000年ハノーバー万博日本館で総合プロデュース業務に従事した他、四半世紀にわたり、5つの大規模万博(ハノーバー、愛知、上海、ミラノ、ドバイ)全てを視察調査。直近のドバイ万博も2回の現地調査を通じて全192パビリオンを分析。



大阪・関西万博公式
キャラクター ミャクミャク
©Expo 2025

大阪の子どもたちを万博会場へ招待する事業が始まります！ 7月1日(月)開設予定

大阪の子どもたちを万博会場へ招待する事業が始まります。それに伴い、大阪府が特設ウェブサイトを開設します(右図)。随時情報が更新されますので、お見逃しなく！



また、本市では府の招待にあわせて、市独自の無料招待について企画を進めています。詳細は決まり次第、市ウェブサイトおよび広報誌でお知らせします。

申請開始時期 2024年9月13日(金)から開始

園大阪府万博子ども招待コールセンター【☎06(7526)3090】(7月8日(月)開設予定、祝日を除く、月～金曜日、午前9時～午後6時)、子ども政策課(内線291)

